

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
平成30年5月8日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県名古屋市中熱田区五本松町11-22	
氏 名 株式会社中部プラントサービス	
代表取締役社長 社長執行役員 伴 鋼造	
電話番号 052-679-1200	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社中部プラントサービス 知多LNG事業所
事業場の所在地	愛知県知多市南浜町27-1
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06：総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高：1,085百万円
③ 従業員数	37人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 廃棄物総括責任者 (知多LNG事業所長) 産業廃棄物管理責任者兼 特別管理産業廃棄物管理責任者兼 事務取扱管理者 (知多LNG事業所業務課長) 業務担当者兼 管理担当者			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	排 出 量	1, 305.4 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 排出される廃棄物の資源化による削減を実施した。		
②計画	【目標】再生利用を促進し、最終埋立処分量を削減する。		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	排 出 量	95.6 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 排出量については、完工高および工事内容により変化することから、単純に比較できないが、再生処理施設を保有する中間処理業者と委託契約を締結することで、最終埋立処分量の削減を目指す。 ・ 平成29年度は、撤去工事を受注したことにより、発生量が一時的に増加したが、今年度は撤去工事の受注の予定が無いことから、発生量は例年どおりとなる予定。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック類、汚泥、廃油はそれぞれに分別し保管している。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 新たな取り組みの予定はないが、引き続き上記の分別を継続する。		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	全 処 理 委 託 量	1, 305.4 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	6.7 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1, 278.6 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	6 t	t
	(これまでに実施した取組) 再生利用および熱回収が可能な委託先との契約を推進した。		

(第5面)

② 計画	【目標】前年度実績より減量を図る		
	産業廃棄物の種類	別紙2のとおり	
	全処理委託量	95.6 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	6.7 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	68.8 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	6 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・引き続き再生利用及び熱回収が可能な委託先との契約を推進することにより、減量を図る。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

○ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して破碎・選別後、再生砕石として再資源化

○がれき類

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して破碎・選別 ⇒ 最終処分業者に委託して破碎後、再資源化(再生砕石)

○汚泥

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して混練後、燃料化 ⇒ 最終処分業者に委託して再資源化(セメント原料)
⇒ 最終処分業者に委託して残渣を埋立処分

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して焼却・熱回収 ⇒ 最終処分業者に委託して焼却残渣を埋立処分

排出 ⇒ 最終処分業者に委託して埋立処分

○金属くず

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して破碎・選別 ⇒ 最終処分業者に委託して圧縮後、再資源化(原料化)

排出 ⇒ 最終処分業者に委託して埋立処分

○廃プラスチック類

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して選別・圧縮 ⇒ 最終処分業者にて再資源化(固形燃料(RPF))
⇒ 最終処分業者に委託して埋立処分

排出 ⇒ 最終処分業者に委託して埋立処分

○廃油

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して焼却・熱回収 ⇒ 最終処分業者に委託して焼却残渣を埋立処分

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して焼却 ⇒ 最終処分業者に委託して焼却残渣を再資源化(溶融還元石)

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して混練後、燃料化 ⇒ 最終処分業者に委託して残渣を埋立処分

○木くず

排出 ⇒ 中間処理業者に委託して選別・圧縮 ⇒ 最終処分業者に委託して破碎後、再資源化(チップ)

別紙2 平成30年度 産業廃棄物処理計画書 添付書

事業所名 株式会社中部プラントサービス 知多LNG事業所
単位:トン

項 目			産業廃棄物の種類									
			ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	汚泥	金属くず	廃プラスチック類	廃油	木くず			合計
産業廃棄物の排出抑制に関する事項	排出量	①現状(前年度)	1192.1	19.4	61.5	7.8	16.8	5.7	2.1			1305.4
		②計画(目標)	0.0	1.7	61.5	7.8	16.8	5.7	2.1			95.6
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	①現状(前年度)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
		②計画(目標)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	①現状(前年度)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
		②計画(目標)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	①現状(前年度)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
		②計画(目標)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
自ら行う産業廃棄物の埋立・海洋処分に 関する事項	処分量	①現状	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
		②計画(目標)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	全処理依頼量	①現状(前年度)	1192.1	19.4	61.5	7.8	16.8	5.7	2.1			1305.4
		②計画(目標)	0.0	1.7	61.5	7.8	16.8	5.7	2.1			95.6
	優良認定業者への 処理委託量	①現状(前年度)	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	4.1	0.0			6.7
		②計画(目標)	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	4.1	0.0			6.7
	再生利用業者への 処理委託量	①現状(前年度)	1192.1	19.4	58.1	1.8	2.8	2.3	2.1			1278.6
		②計画(目標)	0.0	1.7	58.1	1.8	2.8	2.3	2.1			68.8
	認定熱回収業者への 処理委託量	①現状(前年度)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
		②計画(目標)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0
	認定以外の熱回収を行う 業者への処理委託量	①現状(前年度)	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	3.4	0.0			6.0
		②計画(目標)	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	3.4	0.0			6.0

※現状(前年度):平成29年度実績です。 前年対比92% の削減を目標とします。